

この間（1月～6月）のできごと

11月29日～1月14日 企画展「2007 カレンダー展」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「2007 カレンダー展」を開催した。

本企画展は、主に民間の地図作成機関が地図、衛星画像等を図柄に用いて作成した2007年版カレンダーを展示紹介するもので、26点を展示した。

1月9日 モエレ山に三角点及びモニュメントを設置

国土地理院は、モエレ沼公園（札幌市東区）のシンボルであるモエレ山に、札幌市の協力を得て二等三角点「当別太（とうべつぶと）」の標石を設置し、GPSを使用した測量により正確な位置（緯度、経度、標高）を決定した。

三角点には、モエレ山を訪れる市民の方などに三角点について理解を深めていただくため、三角点を中心とした直径2mの円形状モニュメントを設置した。

1月10日～2月25日 企画展「全国児童生徒地図優秀作品展」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「第10回全国児童生徒地図優秀作品展」を開催した。

本企画展は、全国で開催されている「児童生徒の地図に関する作品展」から選ばれた優秀作品を展示するもので、98点を出展した。

1月13日 第6回全国児童生徒地図作品展運営団体等連絡協議会総会を開催

国土地理院において、「第6回全国児童生徒地図作品展運営団体等連絡協議会総会」が開催された。

総会では、連絡協議会名称の改称（全国児童生徒地図作品展連絡協議会）、役員改選、最優秀作品賞の創設に向けた取り組みを行うことが確認された。

1月17日 国土地理院研究評価委員会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において「平成18年度第2回国土地理院研究評価委員会」（委員長：大森博雄 東京大学大学院教授）を開催した。

委員会では、平成17年度で終了した国土地理院特別研究4課題の事後評価を行った。

1月20～24日 アジア太平洋GIS基盤常置委員会（PCGIAP）理事会とマップワールドフォーラムに参加

国土地理院は、インドのハイデラバードで開催されたPCGIAP理事会に、PCGIAPの副会長を務める小牧参事官他2名を派遣した。日本が部会長を務める地域測地部会では、アジア大洋地域の地殻変動監視の強化を含む活動計画案を報告した。

また、地理情報に関連する政府・国際学術団体・企業等関係者約1,500人が参加したマップワールドフォーラムでは、公的利用、技術動向、投資効果、能力開発等について発表・意見交換が行われた。

1月23日 冬柴国土交通大臣が国土地理院を視察

冬柴鐵三国土交通大臣が、国土地理院等国土交通省筑波五機関を視察された。

冬柴大臣は、院長から所掌する業務や取り組んでいる施策について説明を受けられた後、院内の各施設を視察された。国土地理院の技術力の高さや災害対応等到大変感激された様子であった。

1月25・26日 CALS/EC MESSE 2007に参加

「CALS/EC MESSE 2007」がTFTホール（江東区有明）で開催され、国土地理院は、パネルの出展をした他、実務者セミナーにおいて下山測量指導課長が「公共測量と電子納品」と題して講演を行った。

1月28日 公開講座「地震と防災－東南海・南海地震をたどる－」を開催

四国地方測量部は、愛媛県女性総合センター（松山市）において、公開講座「地震と防災－東南海・南海地震をたどる－」を愛媛県と共催で開催した。

この公開講座は、近い将来の発生が確実視されている「東南海・南海地震」に向けて、防災関係者はもちろんのこと、広く一般市民に国土地理院の役割と東南海・南海地震への理解を深め、防災・減災の意識向上を図るために、四国4県との共催で年1回開催している。

2月1日 平成18年全国都道府県市区町村別面積を公表

国土地理院は、平成18年10月1日現在の日本国土の面積をとりまとめた「平成18年全国都道府

県市区町村別面積」を公表した。

国土の面積は、埋立等により1年間で8.36k m²増加し、377,923.14k m²となった。

2月1日 火山土地条件図「安達太良山」を刊行

国土地理院は、2万5千分1火山土地条件図「安達太良山(あだたらやま)」を刊行した。

火山土地条件図「安達太良山」は、安達太良火山の火山活動により形成された地形や侵食・堆積地形の分布状況を主に空中写真の判読等により調べ、防災関連施設等の情報とともに2万5千分の1の縮尺で図にまとめたものである。

2月1日 「数値地図10mメッシュ(火山標高)」を刊行

国土地理院は、平成12年12月1日に刊行した13火山と、平成18年度までに整備した11火山を追加した計24火山を収録した「数値地図10mメッシュ(火山標高)」を刊行した。

2月8日 第4回北海道測量技術講演会を開催

北海道地方測量部は、札幌第1合同庁舎講堂(札幌市北区)において、第4回北海道測量技術講演会を社団法人日本測量協会北海道支部と共同で開催した。

この講演会は、最新の技術情報及びタイムリーな話題を提供し、測量関係者等の測量技術レベル向上を図ることを目的としている。

2月12~23日 第44期国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会に参加

国土地理院は、ウィーン国連本部で開催された第44期国連宇宙空間平和利用委員会科学技術小委員会へ、田中測図技術開発室長を派遣した。

リモートセンシングセッションにおいて、国土地理院から、陸域観測技術衛星「だいち」のデータを用いた地形図作成についてテクニカルプレゼンテーションを行った。

2月16日 第106回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁で開催された第106回火山噴火予知連絡会に、村上地理地殻活動総括研究官他7名が出席した。

国土地理院からは、GPS連続観測結果を始めとして全国の火山活動に関する観測の結果を報告し、活動がやや活発な状況にある御嶽山、桜島、口永良部島の活動に関して集中的な検討がなされた。

2月19日 平成18年度国土交通先端技術フォーラムに参加

国土地理院は、京都大学百周年時計台記念館(京都市左京区)で開催された「平成18年度国土交通先端技術フォーラム」に参加した。

国土地理院からは、防災をテーマとした4枚のパネルを展示し、先端技術を利用した防災に関する研究の取り組みを紹介した。

2月19日 第171回地震予知連絡会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において第171回地震予知連絡会を開催した。

本会議では、全国の地震活動、地殻変動等に関する観測・研究成果の報告と議論、また、トピックスとして近畿地方の地殻変動について報告及び議論が行われた。

2月22~26日 国際VLBI事業(IVS)第17回評議委員会に出席

国土地理院は、ドイツのヴェッツェル観測所で開催された第17回IVS評議委員会へ、松坂宇宙測地課長を派遣した。

本委員会は、IVSの政策・方針・目標を決定するものであり、今回は、恒例の各種報告の他、ヴェッツェル観測所のツインアンテナ計画、韓国やインドでの新VLBIアンテナ建設などの話題があった。

3月1日 英語版2万5千分1集成図「KYOTO」を刊行

国土地理院は、英語版の2万5千分1集成図「KYOTO」(表4色、裏4色、菊判折図)を刊行した。

同図は、我が国の代表的な歴史・文化・観光都市である京都の市街地及びその周辺地域を対象として作成し、この地を訪れる多くの外国人旅行者も文化・教育・観光分野で広く活用することができる。

3月1日 1万分1湖沼図「ペンケ沼・パンケ沼」を刊行

国土地理院は、1万分1湖沼図「ペンケ沼・パンケ沼(ぺんけとう・ばんけとう)」を刊行した。同図は、平成17年度に湖沼湿原調査の一環として実施した「ペンケ沼・パンケ沼」の湖沼測量の成果をとりまとめたものである。

3月1日 火山基本図「伊豆大島」を刊行

国土地理院は、1万分1火山基本図「伊豆大島」を刊行した。

火山基本図は、標高5mごとに等高線を記した精密な大縮尺地図で、火口やその周辺の地形及び建物、道路、公共施設、土地利用等を詳細に表現している。

3月2日 第2回測量行政懇談会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において第2回測量行政懇談会を開催した。

測量行政懇談会（委員長：中村英夫 武蔵工業大学学長）は、地理空間情報に関する社会情勢及び技術動向を的確に捉え、国土地理院の測量行政の推進に資するため、国土地理院長の私的諮問機関として設置したものである。

3月6日～4月15日 企画展「第8回立体地図の世界」を開催

「地図と測量の科学館」において、「第8回立体地図の世界」を開催した。

本企画展は、民間企業等の団体が作成した広く利用されている精密地形模型や地理・地形情報を様々な視点と考察により立体表現した地図等を展示したものである。

3月・4月 平成19年（2007年）能登半島地震に対する対応

国土地理院は、能登半島地震（発生：3月25日9時42分頃M6.9）に対する対応として、9時57分に災害対策本部を設置し、電子基準点（GPS連続観測点）による地殻変動の観測や、被害状況の現地調査、被災地周辺の空中写真撮影、災害応急対応や復旧活動を支援するための各種地図や空中写真、正射写真図等を関係機関への配布を実施した。

また、ホームページに地震関連情報を一覧できる特設ページを開設し、関連する情報を幅広く紹介した。

3月27日 戦後の国土を写した空中写真をインターネットで公開

国土地理院は、約4万枚の空中写真をデジタル化し平成14年4月からホームページで公開してきたが、今回、検索機能を強化した新しい「国土変遷アーカイブ・空中写真閲覧システム」として、戦後に米軍が撮影したものも含め、空中写真の枚数を大幅に増やし公開した。

4月1日 浜松市の政令指定都市移行に合わせて2万5千分1地形図を刊行

国土地理院は、4月1日の浜松市の政令指定都市移行に合わせて、浜松市域の2万5千分1地形

図23面を修正し刊行した。

地形図には、政令指定都市の発足に伴い設置された行政区に関する区名、区役所及び区界を表示するとともに、国道1号線浜名バイパスの無料開放、今年度新しく住居表示された地名なども合わせて修正してある。

4月9日 第172回地震予知連絡会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において第172回地震予知連絡会を開催した。

本会議では、第20期地震予知連絡会の構成が決定された後、平成19年3月25日に発生した能登半島地震に関する観測・研究成果の報告及び議論がなされた。

4月12日 人工衛星データを用いて平成19年（2007年）能登半島地震に伴う地殻変動を詳細に把握

国土地理院は、陸域観測技術衛星「だいち」が2月23日と4月10日に観測した合成開口レーダーデータの干渉解析を行い、3月25日に発生した能登半島地震に伴う地殻変動の詳細な面的分布を明らかにした。

今回、広域の地殻変動を面的に把握することが可能な「だいち」の合成開口レーダー（PALSAR）データを用いた干渉合成開口レーダー（SAR）による解析結果から、震源域周辺の陸域における地殻変動分布を詳細に把握できた。

4月16～22日 科学技術週間における施設一般公開

国土地理院は、全国で実施された「第48回科学技術週間」の一環として施設の一般公開を行った。

本期間中、VLBIアンテナの概要、3D映像等による地形図作成工程、GPS等の観測データによる地殻活動の監視状況、測量用航空機「くにかぜ」について公開・紹介した。

4月24日～5月20日 企画展「地図で知る日本列島各地の変遷」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「地図で知る日本列島各地の変遷」を開催した。

本企画展は、国土地理院が保有する歴史的資料である地図と空中写真によって、全国各地の自然や町の移り変わりを紹介した。

4月27日 ハザードマップポータルサイトの公開

国土交通省は、市町村が作成している各種のハザードマップをインターネット上で一元的に検

索・閲覧することができるポータルサイトを公開した。

これにより、「だれでも」、「どこからでも」、日本中のハザードマップや公開状況を「まるごと」見ることができるようになり、迅速な避難行動や防災意識の高揚につながることを期待される。

5月1日 土地条件図「紀伊長島」を刊行

国土地理院は、2万5千分1土地条件図「紀伊長島」を刊行した。

土地条件図は、私たちの生活の基盤である土地をその成り立ち、形態、性質等から分類し、地形と自然災害等との関係を読み取れるようにした地図である。

5月14日 第173回地震予知連絡会を開催

国土地理院は、関東地方測量部において第173回地震予知連絡会を開催した。

本会議では、今後の地震予知連絡会の活動展開についてワーキンググループ設置が承認された後、平成19年(2007年)能登半島地震等に伴う地震活動・地殻変動に関する観測・研究成果の報告と議論があった。また、トピックスとして「連動型巨大地震」について報告と議論がなされた。

5月19日 日本地震学会論文賞を受賞

国土地理院の研究者が執筆した論文が、2006年度日本地震学会論文賞を受賞した。

幕張メッセ国際会議場(千葉市美浜区)で開催されに日本地震学会平成19年度通常総会において、対象論文の代表執筆者である地理地殻活動研究センター地殻変動研究室の小沢慎三郎主任研究官が栄誉を授かった。

受賞対象論文は、Coseismic and postseismic crustal deformation after the Mw 8 Tokachi-oki earthquake in Japan, Shinzaburo Ozawa, Masaru Kaidzu, Makoto Murakami, Tetsuo Imakiire, and Yuki Hatanaka, Earth Planets Space, Vol. 56, No. 7, pp. 675-680, 2004.である。

5月20日 測量士・測量士補国家試験を実施

国土地理院は、全国の14都市において平成19年測量士・測量士補国家試験を実施した。今年の実験者数は測量士2,398名(前年比0.99)、測量士補11,052名(前年比0.95)であった。

5月23日 測量法の一部を改正する法律案の公布

測量において得られた成果の活用を一層促進するため、国が作成した地図等の基本測量の測量成

果をインターネットにより提供する制度の創設、地図等の測量成果の複製等に係る規制の合理化等の措置を講じるための測量法改正案が公布された。

5月29日～7月22日 企画展「地球と地図の大ロマン」を開催

「地図と測量の科学館」において、企画展「地球と地図の大ロマン」を開催した。

本企画展は2部構成で、「地球大ロマン」では地球誕生から現在に至るまでの様々な現象・様子を振り返り、今の地球を知る上で現在どのような調査・研究が行われているのかについて、「地図大ロマン」では古代における地図の始まりから近代の地図に至るまでの経過を様々な地図で紹介した。

5月31日 第36回国土地理院技術研究発表会を開催

国土地理院は、新宿明治安田生命ホール(新宿区)において第36回国土地理院技術研究発表会を開催した。

今回は、「地理空間情報社会を支える基盤の確立」をテーマに掲げ、国土地理院が取り組む事業・研究について7課題の発表を行い、また、東京大学大学院情報学環副学環長・教授の坂村健氏に、「ユビキタス空間情報基盤の確立に向けて」と題して特別講演をいただいた。

5月31日・6月1日 ISO/TC211 地理情報専門委員会第24回総会に出席

国土地理院は、イタリアのローマ市にて開催された国際標準化機構の地理情報に関する専門委員会(ISO/TC211)の第24回総会へ、河瀬基盤地図情報課長及び西城情報普及課長を派遣した。本総会では、5つの新業務項目の登録、国際規格案の登録、特別作業グループの設置、OCGへの要請が決議された。

6月1日 土地条件図「須崎」「いの」「窪川」を刊行

国土地理院は、2万5千分1土地条件図「高知」、「安芸」、「土佐高岡」を刊行した。

6月3日 「地図と測量のフェスティバル2007」を開催

国土地理院は、「測量の日」関連行事として「地図と測量のフェスティバル2007」を開催した。

今年は、各種のイベントを通じて測量と地図への理解と親しみを深めてもらうとともに、測量・地図の意義及び重要性について紹介した。

6月12～15日 第13回アジア太平洋GIS基盤常置委員会(PCGIAP)に出席

国土地理院は、韓国ソウル市で開催された第13回アジア太平洋GIS基盤常置委員会(PCGIAP)へ、小牧参事官(同委員会副会長)他2名を派遣した。

会議では、作業部会、GSDI協会、地球地図国際運営委員会、ISO/TC211等からの状況報告があり、ワークショップでは、日本からNSDIの現状を報告した。

6月18日 硫黄島の呼称を「いおうじま」から「いおうとう」へ変更

国土地理院は、小笠原村から地名修正の要望を受け、東京都小笠原村所属の硫黄島の呼称を「いおうじま」から「いおうとう」へ変更した。

硫黄島については、地元で旧島民が「いおうとう」と呼んでいた背景もあり、国土地理院と海上保安庁海洋情報部で検討を続けた結果、今回、変更に至った。

6月19日 第107回火山噴火予知連絡会に出席

気象庁で開催された第107回火山噴火予知連絡会に、村上地理地殻活動総括研究官他10名が出席した。

本会議では、参加した各機関から全国の火山活動に関する最新の観測結果が報告され、総合的な検討が行われた。特に御嶽山、桜島、伊豆大島の活動に関しては集中的な検討がなされた。

6月20日 第130回南極地域観測統合推進本部総会に出席

KKR ホテル東京（千代田区）において、第130回南極地域観測統合推進本部総会（本部長：文部科学大臣）が開催された。

今回の会合で、第49次南極地域観測隊として、越冬隊及び夏隊合わせて約55名の派遣者が決定され、国土地理院からは、夏隊員として高畑調査専門職が派遣されることになった。

6月20日～22日 全国測量技術大会2007に参加

パシフィコ横浜（横浜市西区みなとみらい）において、全国測量技術大会2006（主催：(社)日本測量協会他3団体）が開催された。

国土地理院からは、最近の測量行政の動向について」を下山測量指導課長が、「基盤地図情報の整備について」を坂部電子国土調整官が講演を行い、GISシンポジウムには雨宮測地基準課長がパネリストとして参加した他、同時に開催された測量調査技術発表会では北原防災地理課長が発表を行った。